



“ともに生きる”を目指して

手話通訳・要約筆記あり

福祉教育の専門家で、長野県ご出身の原田先生をお招きし、「ふくし」と相互実現や福祉教育における協同実践などについてご講義いただきました。また、事例発表とパネルディスカッションにより、コロナ禍の福祉教育について考えました。

原田先生からは「ボランティアはする側、される側ではなく、お互いがよりよく生きること」といった「相互実現」についてお話があり、新たな発見が多くありました。また、事例発表とパネルディスカッションでは、福祉教育はどれだけ自分事のできるかにかかっていることに気付くよい機会となりました。

また、社会福祉協議会と公民館の連携を進めていくことの利点、一方で連携の難しさについて課題を受講者同士で共有することができました。 受講者：68名

<研修内容>

【講義】

演題 「ふくしを学びあう～共に生きる力をどう育むか～」

講師 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 **原田 正樹** 氏



【事例発表Ⅰ】

演題 「地域の課題に対応するコミュニティワーカーとして～共に歩み 共に育つ視点から～」

発表者 社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会 総務福祉係 主任 **山田 翔太** 氏

【事例発表Ⅱ】

演題 「多文化共生事業（日本語教室を通じた外国人と地域住民との交流、外国人児童生徒のキャリア支援活動）」

発表者 飯田市公民館 副館長補佐兼学習支援係長 **近藤 善彦** 氏



【パネルディスカッション】

演題 「コロナ禍の福祉教育をどうすすめる？～今だからこそできること～」

パネリスト

社会福祉法人 御代田町社会福祉協議会 総務福祉係 主任 **山田 翔太** 氏

飯田市公民館日本語教室支援者、地域日本語教育コーディネーター **大澤 志那子** 氏

飯田市公民館日本語教室利用者 **市川 マリ** 氏

コメンテーター 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 **原田 正樹** 氏

コーディネーター 長野県生涯学習推進センター 主任指導主事 **栗林 幸治**



<受講者アンケートから>

- 原田先生の講義はとても分かりやすく有意義でした。みんなで考えると参加者同士の学び合い等、また「優しさを広げていこう」の言葉がいいですね。（一般）
- 小学生の福祉の反対の言葉「戦争」に驚きを感じました。大人の先入観、固定概念の中での福祉の受け取り方と子どもの福祉への受け取り方の違いを感じました。（公民館）
- 福祉×〇〇を実現する事は「難しい」「ハードルが高い」と思っていたのですが、相手方の取り組みを尊重しながら、一緒にやらせてもらうところからスタートさせることに、まずは取り組んでみようと思えました。（社協）
- 市川さんの話をお聞きして、公民館の活動を通して、自らを成長させていると感じ、公民館が外国人の居場所作りにつながっていると思いました。（教職員）